



市政同志会
帰山 明朗 議員

来年4月にスタートする嶺北11市町「連携中枢都市圏形成構想」への期待は

問 福井市を中心とする嶺北11市町での連携中枢都市圏構想は、人口減少社会にあつても、各市町が行政機能を維持しつつ、商工業や農林水産業の振興、また、移住・定住の促進などに連携して取り組むことで大きな効果を得ることを目指すもの。戦略的かつ柔軟な連携を行うべく、来年4月のスタートを目指して協議を行い、2月1日には域内の首長らによる会議が行われ、都市圏の大まかな将来目標を定めたビジョン骨子案を合意されたものと承

知しているが、本構想への所見や期待は。

答市長 2月1日の首長会議では、同構想の概要とスケジュール等、全体の中での本市の位置づけが説明された。本市は嶺北11市町のほぼ中央に位置し域内の交通便利性が非常に優れている。本市には眼鏡、繊維、漆器の三大地場産業がある。これらを圏域の恐竜博物館や永平寺、越前海岸、朝倉氏遺跡、越前市の伝統工芸など豊かな地域資源との連携の中、本市がどう位置づけられ、どうつながりを持つかを要望していきたい。また平成35年春には北陸新幹線の金沢敦賀間が開業。本市は特

急も停まらない新幹線の駅も無いという非常に厳しい状況に立つ。関東甲信越方面とのアクセスについて本構想でどう捉えていくか考えてほしい。また、並行在来線の三セク、福武線、えちぜん鉄道、小松空港、仮称南越駅とのアクセスについても交通網対策を近隣市町の連携が得られるよう積極的な働きかけが必要である。中心となる福井市に鯖江市の立場を十分申し上げたい。そうした連携強化により持続可能なまちづくりにつながるような連携中枢都市圏形成構想にしてほしい。

そのほかの質問

○豪雪について
○市民窓口業務の民間委託について



市民創世会
丹尾 廣樹 議員

平成30年豪雪における雪害対応について

問 除雪委託等、準備に抜かりはなかったか。

答 除排雪とも計画段階から機械台数等を確保し、効率的な作業に努めた。しかし、除雪業者の減少や除雪車、オペレーターの確保等、除雪を取り巻く環境は厳しい。今回の教訓をいかし様々な問題を検証し今後につなげたい。

問 ひとり暮らし高齢者世帯等の屋根雪下ろしの対応はどうだったか。

答 市には、積雪が1メートルを超えた2月6日から2月15日にかけて、全地域から屋根雪下ろしの依頼や相談が567件寄せられ、業者も手一杯の状況の中、

区長、民生委員の皆様にはその対応に大変なご負担をお掛けした。今後は、業者や一般ボランティアの不足を補う取組や作業金額の可能な限りの調整を行いたい。また、迅速な対応には、地域ぐるみの助け合い体制が必要。住民のご理解とご協力を得る中で支援体制の整備に取り組みたい。

問 コミバスの再開が遅れた理由は。

答 今回の豪雪で2月6日から16日にかけて全便運休。17日から20日は循環線の運行を再開し、21日午後から全便での運行を再開した。運休期間中は、1日も早い運行再開に向け準備。安全運行に必要な

道路幅員や路面状況等を道路管理者や運行事業者と情報共有し、試験走行で安全を確認しながら、再開の日程を調整したが、12日から13日の更なる降雪により、再開日が延期となり、運休が長期化した。

問 災害時対応ルートの考慮はどうか。

答 今回の豪雪で、運休から再開に向けて、一部迂回ルートで再開し、安全が確認された箇所から順次通常ルートに復帰する運用を行った。今後は、さまざまな災害を想定した緊急時の運行ルートを準備する等、バス事業者と研究、検討したい。

